

経済学部同窓会新会長を迎えて ご挨拶

大場やすのぶ



プロフィール
会長 大場 やすのぶ
昭和45年経済学部卒業
世田谷区議会議員

猛暑の候、皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。私は平成十七年度の経済学部同窓会役員会において勝場正範前会長の推挙で同窓会会長に選任していただきました。今後は経済学部同窓会の活動を通して母校駒澤大学発展のため、微力ながら全力を尽くしてまいれる所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。

私は昭和四十五年駒澤大学経済学部商学科卒業後、地元世田谷区で家業の雑貨店を継ぎました。以来地元商店街や地域経済の発展のため力を尽くしてまいりましたが、一方で、商店の経営を通して感じました暮らしやすい地域社会の創出を目指し、政治の世界へ身を投じました。

平成七年世田谷区議会初当選以来、連続四期議会活動を続けております。また、この五月に第五十六代議長に選任されました。重責に身が引き締まる思いでございますが、地方議会の長として地方自治の本旨の実現に貢献してまいりたいと粉骨砕身努力を惜しまぬ覚悟でございます。

私はこの間、駒澤大学評議員（平成十四年四月～）駒澤大学ホームカミングデー委員（平成十四年四月～）世田谷学園同窓会副会長（平成十八年十一月

～）を仰せつかり、わが国の教育における私学の重要性や果たすべき役割について深く考える機会を得ました。資源を持たない日本においては世界に通用する優れた人材を育てることこそが将来への道にほかなりません。まさに本学の建学の精神である「行学一如」が人材育成の普遍的な考えであるとの思いを強くしました。

ところで、今年も第五回経済学部同窓会総会が開催されます。しかも母校の建学百二十五年の年に開催されますことは大きな喜びでございます。この百二十五年の歴史はいろいろな学びの積み重ねの上に成り立っていると思えます。私自身を振り返ってみても、父からは大学へ通うにあたって、家業を手伝

うこと、そのため時間割を提出すること、が条件とされたことを思い出します。時間割を見ている父は私の授業が終わると出かけてしまうので、急いで帰宅しなければいけませんでした。しかし、そんな父から許しをもらい四年生のとき詩吟部に入学したことで思わぬ人生体験もできました。

当時は学園紛争が盛んな時代でしたし、全共闘が学校を占拠し、部室を守るために泊り込みをし、社会について議論をした、そんなことが懐かしく思い出され、教室以外での大きな学びとなったと思っています。

このように今ある自分にとって感謝の尽きない経済学部と母校発展のために、全力をあげてまいれる所存でございますので、同窓会会員の皆様におかれましても何卒よろしくお願

い申し上げます。（注、この原稿は八月にいただきました。）

こまざわ 経済 通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1

計報
初代経済学部同窓会会長の勝場政範氏が平成十九年八月十六日に逝去されました。経済学部同窓会発足にあたり大変ご尽力をいただき、平成十六年より母校駒澤大学の同窓会長として、また学校法人駒澤大学評議員として大学発展のために尽くされてきました。

その間にも経済学部同窓会に対してたくさんのお言葉をいただきました。第五回総会に向けて前会長としてのお言葉を依頼しておりましたが大変残念ですが掲載することが出来ませんでした。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

享年七十四才
合掌

第5回経済学部同窓会 開催のお知らせ

5回目の同窓会をホームカミングデーが開催される十一月三日（土）に併せて経済学部同窓会も実施することになりました。当日は他学部の同窓生もたくさんお見えになることと思われれます。今年卒業されたばかりの同窓生も、卒業されて、十年、の同窓生も是非お越し下さるようお願い申し上げます。なお、当日はオータムフェスティバル（大学祭）も開催されています。

新会長大場やすのぶ氏を迎へ同窓生、教職員の懇親の和を広げたいと思えます。

記
日時 平成十九年十一月三日（土）
十一時三十分受付
総会 十二時より開催します
場所 駒澤大学 一号館 三〇一教場

思いいで恩師

スト突入下の「駒澤義塾」

―古庄ゼミの思い出―

昭和四十四年経済学部卒 好川之範

四〇年むかし、古庄正先生の日本経済史ゼミに身を置いた。学園闘争で、キャンパスが揺らいでいた一九六〇年代の後半のことである。

古庄先生はお若かった。

教室に響きわたる明治維新論の弁舌は、実に歯切れよく鮮やかだった。私事ながら、僕の基（もと）といは会津藩士、敗惨の系譜をひく血なので、「明治維新」「戊辰戦争」などの四文字には、事のほか大きく反応したようである。

ゼミの思い出は尽きないが、四年生だった昭和四十三年秋、文学部、法学部、続いて経済学部がストに入った。「オイ、古庄ゼミはどうしよう？」。考えはやはり欠席（ボイコット）ということとまとまった。

その意思を古庄先生にお伝えしたのは、小生だった。「私のゼミまで拒否・・・」。先生がそうおっしゃったかどうか、記憶はおぼろげだが、先生の「目」はそう語っていた。

「戊辰戦争の際、上野のお山で戦さになっても慶應義塾の福沢諭吉は授業を継続していた」とは、その時の古庄先生のひとくさり。言葉を続けて、「学内のゼミが駄目なら、駒沢公園でやりましょう」と先生。われわれゼミの学生に、これを拒否する

理由は、見当たらなかった。

駒沢公園の芝生の上で、古庄先生を囲んで一人ばかり。いつものように、古庄ゼミは穏やかに始まった。これぞ、慶應義塾ならぬ、車座になったの「駒澤義塾」の開講である。

学園にストあれど、学問にストはない―古庄先生がわれわれ青二才に下した戒めだったろう。

蛇足をひとつ。その日、「駒澤義塾」の三〇メートル向こうに、都立大学の男女学生がやはり車座のミーティングをしていた。その中に絶世の美人女子学生がいて、はてさて、それでどうなったか。その先は、シークレットだ。

スト下の駒澤義塾も、都立大女子学生も、四〇年以前の大事な青春の思い出だが、卒業して古庄先生とはお会いすることなく、欠礼のままである。

（札幌市教育文化会館館長）

働き、教え、学ぶ日々

昭和五十四年三月大学院経済学研究科

博士課程満期退学 高田好章

三年前の四月、二十五年ぶりに駒澤大学の正門をくぐった。私は、経済学部と大学院で九年間学び、そのまま実家のある大阪に帰り、化学会社に就職した。

大阪に帰ってからも細々としたものではあるが、現実の経済に身をおきながら経済学の勉強を続けてきた。恩師からのお声がけで、二〇〇四年四月に経済学部

の講義を半年間受け持ち、一昨年と今年も同様に前期の講義を行なった。私達が学んでいた頃の先生の多くは退職されていたが、その頃若かった先生方に懐かしくお会いすることができた。

講義をするにあたって、まず考えたことは、実際に仕事であったこと、会社とはどのようなものであるかなど、できるだけ自分が経験したことを多く話すことである。企業はどのように考えて人を採用するか、ということには特に学生から反応があった。授業の方法は、会社で得意先に新しい商品説明を行ったり、社内で開発製品の発表などの際と同じように、プレゼンテーションのソフトを使い、視覚的に分かりやすく説明することに心がけた。科目は「現代経済事情」なので、新聞記事を多く取り上げた。さらに、できるだけ現実問題に臨場感もって考えてもらうために、それまでビデオに取りためたテレビ番組を編集して、毎回放映した。一面的に捉えるマスキミの怖さもあるが、中国やインドの経済発展の様子やそこにある貧困問題、日本のワーキングプアなど現実の経済社会問題を考えてもらうきっかけになったと思う。講義の最初に、新幹線の車窓から見えるその日の富士山や、関西の名所などの写真を見せる工夫もした。

講義で使ったスライドはホームページに掲載し、もう一度見てもらえるようにした。毎回アンケートをとって見たが、学生達は意外と真面目に答えてくれて、ある程度の双方向的な講義ができたように思う。

毎週水曜日に東京まで出かけることをゆるしてくれたい会社や同僚に感謝している。日帰りで夜七時半の講義が終わり、奈良の家に着くのは十二時になる。毎週の講義準備に土日の休みがつぶれるが、教えることは自らも学ぶことであると実感した日々であった。

（日進化学株式会社常務取締役）

永田ゼミの思い出

昭和四十九年

経済学部商経学科卒業

高橋靖枝

試験の答案を前にして、覚えてきた筈の答えが消えてしまう夢を見ることがある。

学生時代、永田正臣先生の必修科目「経済史」の試験で経験した。その試験で良い成績をとらなければ「永田ゼミ」には入れないと先生自らが仰しかったのだ。私はゼミに参加しなかったので万全の準備をして席についたのだが、答案が配られる直前、頭の中にあつたものが消えて真っ白になってしまったのである。

「どうしよう！書けない！忘れた！」と叫んだ時、前の席の友人が「自分以上のものを書こうとするからだよ」と一言。私は頭を「ガン」と殴られたように感じた途端、記憶がよみがえった。お陰で答案は上出来だった。

永田ゼミに入ることが出来て嬉しかった。当時、四号館の四階にあつた教場に、先生は息をきらして登っていらした。「高橋君、管財部でエレベーターを何とかならないの」とよく言われた。私は大学の職員で管財部に配属されていたからだ。

先生は、二回の合宿にも夜中迄付き合ってた下さり、私達がご自宅に押しかけて奥様の手料理を美味しく頂戴したりする機会を与えて下さった。お皿がすぐに空になる程、皆よく食べ、論客揃いであった。

アシユトンの著書『産業革命』をテーマに、鋭い先生の質問と熱い議論のゼミになった。私は先生の目線から逃れる席を研究したが、そんな席はなかった。服部君との激論はすごかった。先生はその時、青年のような気持になっていらしたと今思う。黙々と実力派の中田君、市川君、合宿を成功させた阿部君、ゼミの人達の豊かな個性と輝く才能に私はただ圧倒され続けたのである。

当時も、経済学部の先生方は素晴らしい研究熱心な先生や完成された人格をお持ちの先生方が多くおられ、私も尊敬していた。しかし、ゼミという形態によって、私の大学生活は実りの多いものになった。優れた友人を多くもつことが出来たからだ。

イギリスの産業革命に興味を持ったこともあって、在学中に大学の第一回ヨーロッパツアーに参加することが出来た。

ロンドンでの自由行動の日に、早速書店に行き原書を買った。日本の書店とは全く異なる販売の方法に驚きながら。次の目標は、この目で産業革命の「困り込み運動」の跡を見ることだった。何人かで地下鉄と電車を乗り継ぎロンドンの西郊外、ウインザー城へ向かった。車窓に石垣で囲った畑が見えた時は感激だった。

車中の上品な婦人に「産業革命の時の困り込みの跡ですか」と尋ねたが全く通じなかったようだ。行き先を尋ねられて、「ウインザー城」と答えた時、婦人はすかさずクインズイングリッシュで「ウインザー」の発音を訂正し、「ラブリーな城です」と付け加えた。

私達が何回言っても発音の「OK」はでなかった。婦人が電車を降りる時、日本のコインを一行の一人が渡し「記念に」と言ったら快く微笑んで受け取ってくれた。アガサ・クリステイの小説に登場するミス・マーブルのような婦人だった。

永田先生へのイギリス土産は何にしたのだろうか覚えていない。先生が亡くなられてもう二十二年になろうとしている。

永田先生は、千の風になって、どのあたりを吹きわたっておられるのだろうか。先生を知る人達すべてに、爽やかな希望の風を送って下さっているに違いないと私は思っている。

平成十九年度

経済学部新任教員の自己紹介

平成十九年度経済学部には現代応用経済学科が新設されました。

それにともない経済学科夜間主コース（旧経済学部二部）は募集停止。学部改組により現代応用経済学科に五名。商学科に三名の教員が就任しました。

（『駒澤大学学園通信』第二七五号より転載）

【商学科】

身近な経済問題を追究



名前を見て驚かないでください。あの姉歯氏は知らない人ですが何だか不思議な感じの人です。出身は世田谷区、駒澤大学大学院修了。

「珠玉のような授業時間」に恵まれた大学生活は最も楽しい時間でした。皆さんにとっても「駒大」での学生生活が充実したものとなるように一緒に頑張りたいと思います。身近な経済問題を扱う消費経済論を担当します。

皆さんの成長をサポート



税務会計論担当の北口りえです。出身は熊本で、学部・大学院ともに九州大学で過ごしました。

この環境を自分の成長のためにうまく使いこなして、色々なものにチャレンジして欲しいと思います。大学での講義やゼミも皆さんの成長を支えてくれるものの一つです。私も皆さんの成長を全力でサポートしていければと思います。

専門は多国籍企業論



本年度、駒澤大学経済学部講師に就任した小西宏美です。立命館大学大学院国際関係研究科を修了しています。専門は多国籍企業論です。自宅から五分ほどのところに鶴見川が流れているので、

休日には川沿いをよく散歩します。駒澤の学生はエネルギーがユダナ、という印象を持っています。そのエネルギーを四年間やし続け、有意義な学生生活を送ってもらいたいです。

【現代応用経済学科】

掛け橋になっていきたい



本年四月に経済学部の新学教員として現代応用経済学科に就任し、「現代企業論」を担当することになりました。出身地は新潟市で、万代橋、八千代橋、昭和大橋といった信濃川にかかる多くの橋

を持つ校区で育ちました。これから社会との掛け橋となるような多くの駒大生を輩出できるように、また教職員の方々と間にたくさんの橋を掛けられるように精進していきたいと思っています。何卒宜しくお願い致します。

考えるための手法としての経済学



「法と経済学」と「制度の経済学」を担当します。法律や社会制度が経済社会に与える影響をミクロ経済学の手法を用いて分析する新しい学問分野です。経済社会にかかわる様々な法や制度の仕組みと

機能を皆さんとともに学びたいと思います。学生の皆さんには、身近な経済現象から世界経済の問題まで広く興味を持ち、それら自分で考えるための手法としての経済学を身につけてもらいたいと思います。

地域という身近な窓から



私の出身地は、「キューボラの街」といわれた埼玉県川口市です。現在は、東京都府中市に住み、京王線のラッシュに耐えながら通勤しています。専攻は「地域経済論」です

が、地域産業（地場産業・工業集積・商店街・観光地等）の活性化、という実践的なテーマに取り組んでいます。趣味は、実益（温泉旅館の再生支援）を兼ねた温泉郷巡りです。私と一緒に、地域という身近な窓から、経済・産業の全体像を学んでいきましょう

自由に議論するための視点を養う



一九七五年、兵庫県生まれの。東京大学大学院経済学研究所修了。博士（経済学）。趣味は街歩きと水泳です。ゲーム理論、産業組織論を中心にミクロ経済学を研究してきました。特に戦略的提携

といった企業間ネットワークに関心を持っています。講義や演習を通して、市場や企業について自由に議論できるようにするための視点と方法を提供できればと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

NPOの経営学



東京都出身。小・中・高は長野県で育ちました。駒澤大学経済学部商学科（飛び級退学）、駒澤大学大学院商学研究科で学び、博士（商学）の学位を授与されました。専門は非営利組織（NPO）の経営学です。現在は、社会的企業など最近注目される非営利組織を中心に研究しています。非営利組織に興味のある学生たちと教室やe-learningで活発な議論ができることを期待しています。

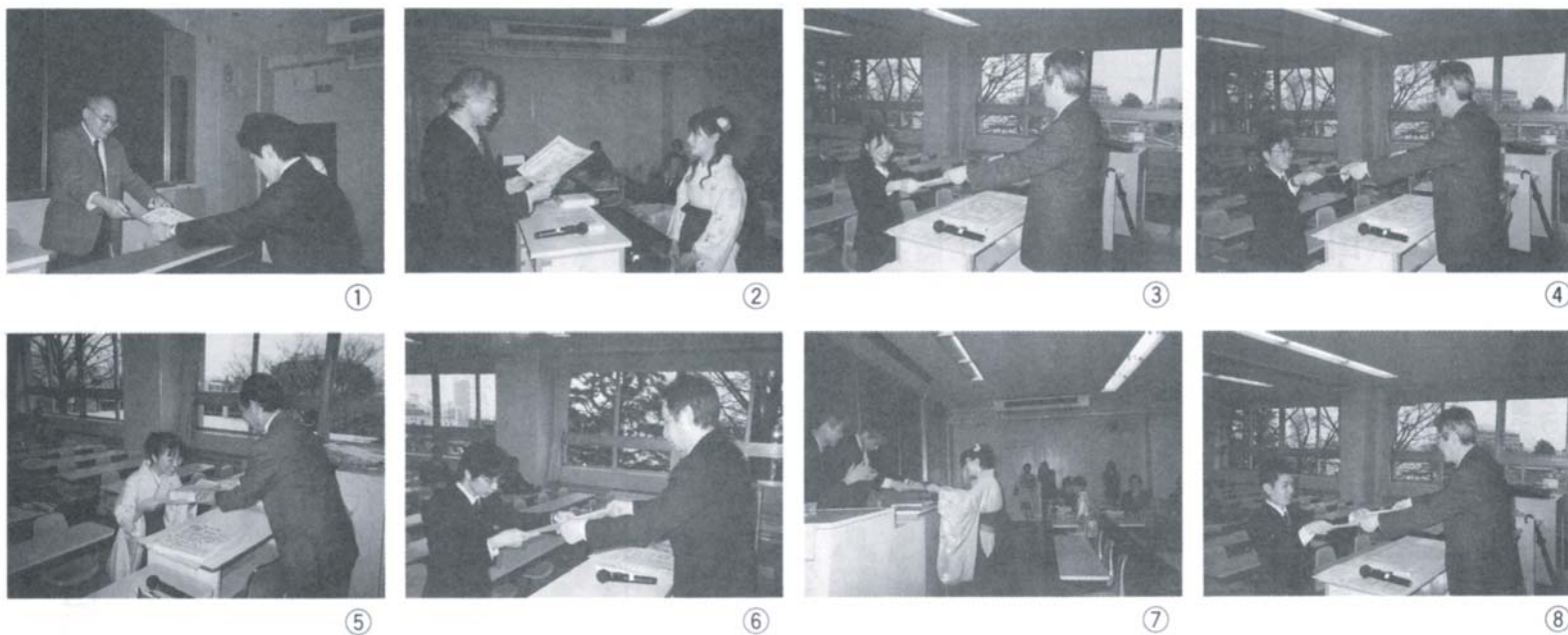
卒業式で「経済学部同窓会会長賞」授与

経済学部同窓会は、平成十九年三月二十五日に挙行された卒業式で、経済学部の学生で、学業で優秀な成績を修め、人物共に優れた学生九名に経済学部同窓会より「経済学部同窓会会長賞」が授与された。表彰された9名は、教務部で選考され、経済学部教授会で審議の結果選出されたもので、表彰者は次の卒業生である。

経済学科フレックスA	商 学 科	経済学科フレックスB
氏 名	氏 名	氏 名
陶 山 伸 一	中 山 佳 奈 子	早 川 加 織
三 瓶 愛	西 村 直 子	越 川 浩 成
千 葉 淳 司	小 林 つ ぼ 美	山 田 英 史

表彰式は、卒業式の後、各学科に分かれて行われる卒業証書授与式の際に行われ、表彰状と記念品がそれぞれの学生に授与された。陶山伸一、中山佳奈子、早川加織さんの三名は学長賞も同時に授与された。受賞後には、四年間真面目に努力してきた成果と受賞の喜びを語っていた。

写真は会長賞を授与される①陶山伸一君、②三瓶 愛さん、③早川加織さん、④越川浩成君、⑤小林つぼ美さん、⑥千葉淳司君、⑦中山佳奈子さん、⑧山田英史君です。



経済学部同窓会の後援で「第十七回 経済学部ソフトボール大会」

経済学部同窓会の後援で今年十月十五日（月）に「経済学部ソフトボール大会」が予定されている。

十月十五日は駒澤大学の開校記念日で授業がなく、例年、開校記念日を祝してソフトボール大会が行われている。

経済学部同窓会は第一回総会で、事業活動の一環として経済学部の教育活動の支援が提案され、決定されている。これまでに「経済学部ソフトボール大会」をはじめ「経済学部論文発表大会」、「花いっぱい運動」、卒業式において学業で優秀な成績を修めた人物共に優れた学生に「経済学部同窓会会長賞」を授与するなどの活動を行っている。そして、「経済学部ソフトボール大会」は今年で一七回を迎える。

ソフトボール大会は玉川校舎のグラウンド二面を使用して行われる。毎年、約40～50のゼミチームが参加して熱戦が繰りひろげられ、優勝が決まるのは18時頃になるが、夕方にはグラウンドに照明が入り、綺麗に整備された人工芝が照明に映えてとても美しい。優勝、準優勝、三位の各チームと敗者復活戦一位チームには経済学部同窓会から賞状と賞品が授与され、最後に参加者全員でゴミ拾いをして終了する。

ソフトボール大会には「同窓会チーム」も参加するので、平日頃運動不足の方、腕におぼえのある方、体力を持って余している方は奮ってご参加ください。ちなみにいまだ一勝も挙げられず、勝利の美酒は味わっていません。

これまで第一回大会から第十六回大会までの優勝チームは別表の通りである。優勝回数では五回が谷敷ゼミナール、三回が瀬戸岡ゼミナール、二回が岩下ゼミナール、遠藤、中原、里中、吉田、岩波ゼミナールが各一回となっており、平成十六年以降は各ゼミとも力が均衡し、混戦となっている。（別表は経済事務室のご協力で作成しました）



（写真はソフトボール大会を運営する学生とソフトボール大会係の岩波先生、もう一枚はソフトボール大会に参加した教員、同窓生チーム）

駒澤大学経済学部創立五十周年記念



第九回 経済学部ソフトボール大会

大会名	優勝ゼミ名	開催年度
第一回大会	遠藤ゼミナール	平成三年度
第二回大会	谷敷ゼミナール	平成四年度
第三回大会	中原ゼミナール	平成五年度
第四回大会	谷敷ゼミナール	平成六年度
第五回大会	谷敷ゼミナール	平成七年度
第六回大会	谷敷ゼミナール	平成八年度
第七回大会	谷敷ゼミナール	平成九年度
第八回大会	岩下ゼミナール	平成十年度
第九回大会	瀬戸岡ゼミナール	平成十一年度
第十回大会	雨天のため中止	平成十二年度
第十一回大会	瀬戸岡ゼミナール	平成十三年度
第十二回大会	瀬戸岡ゼミナール	平成十四年度
第十三回大会	里中ゼミナール	平成十五年度
第十四回大会	岩下ゼミナール	平成十六年度
第十五回大会	吉田ゼミナール	平成十七年度
第十六回大会	岩波ゼミナール	平成十八年度
第十七回大会		平成十九年度